

1 コシヒカリの穂肥 ～適期穂肥で登熟期間中の稲体活力を維持！～

(1) 分施肥体系

■2回目の穂肥の目安(5月12日田植えの場合)

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量	穂揃期の葉色目標
1回目穂肥の7日後(7/26頃)	BB 穂肥 35号	10～13kg(砂壌土 13kg)	4.2～4.5

※2回目の穂肥施用後も、葉色が4.0(砂壌土4.2)以下と淡い場合は、
出穂3日前までに BB 穂肥35号で5～7kg/10a(砂壌土7～10kg/10a)を施用する。

(2) 肥効調節型(基肥一発)肥料体系

出穂7日前に葉色 4.0(砂壌土 4.2)未満と淡い場合は追加穂肥を施用する。

■追加穂肥の目安(5月12日田植えの場合)

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量
出穂7～3日前 (7/26～7/30頃)	BB 穂肥 35号	7kg(砂壌土7～10kg)



※飽水管理の励行で、稲が十分に穂肥成分を吸収し、葉色上がるようにしましょう！

2 コシヒカリの防除 ～適期・適正な防除で、被害を防止！～

■防除時期の目安【5月12日田植えの場合、出穂予想8月2日頃の場合】

防除時期	出穂始め(穂が2～3割見られたら)※	穂揃期	傾穂期
	7月29～31日頃	8月5～7日頃	8月12～14日頃
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a(収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150L/10a	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150L/10a	スタークル液剤 10 1,000倍(収穫7日前まで) 散布量: 150L/10a
対象 病害虫	紋枯病、カメムシ類、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ

※前年、紋枯病の発生が確認された圃場や、カメムシ類の常発地域では「出穂始め」の防除を実施してください。

★ 農薬散布における留意点 ★

- ① 今後の高温により、出穂が早まることがあるので、圃場毎の出穂状況を確認して、適期に防除する。
- ② 農薬のラベルに記載された使用量、収穫前日数等の農薬使用基準を遵守する。
- ③ 防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけない。
- ④ 防除は風のない時間帯で実施し、稲以外の作物や学校・住宅地等の周辺への農薬飛散の防止に努める。

《微粒剤体系》※今年から「粒剤」から「微粒剤F」に変わりました！

防除時期	穂揃期(8月5～7日頃)	傾穂期(8月12～14日頃)
薬剤名 (収穫前日数)	ビームスタークル微粒剤F 3kg/10a(7日前まで)	キラップ微粒剤F 3kg/10a(14日前まで)
対象病害虫	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	カメムシ類、イナゴ類 ウンカ類

微粒剤Fとは？

粉剤と粒剤の中間に位置付けられる剤型で、粉剤に比べて散布時の飛散が極めて少ないという特徴があります。

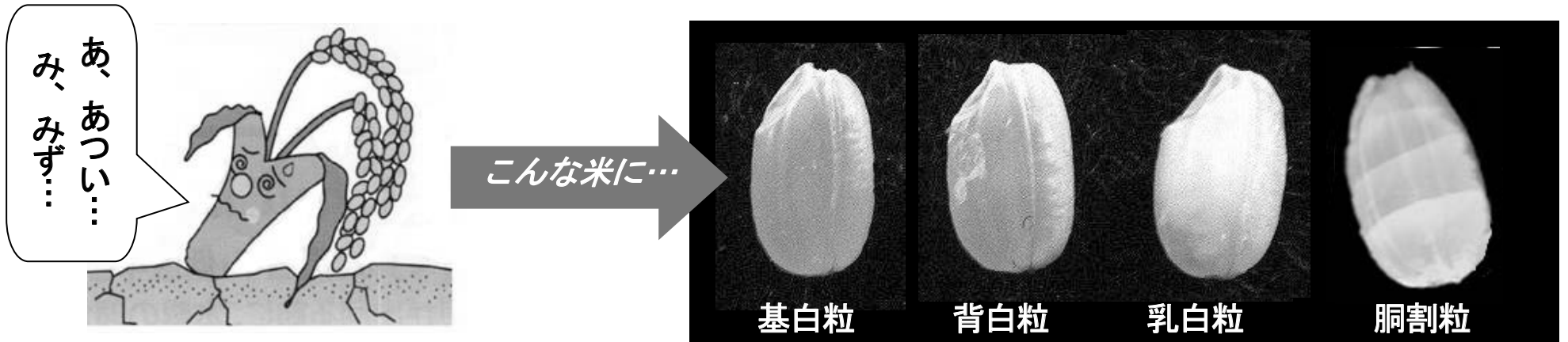
★ 微粒剤使用の留意点 ★

- ① 農薬飛散の問題がある市街地周辺、稲以外の作物が隣接する場合に使用する。
- ② 粉剤とは散布特性が違うので、均一に散布するために微粒剤F専用ホースを使用する。
- ③ ホースはできるだけ水平を保ち、稲体よりも少し高い位置から散布する。

※詳細は各営農センターまでご相談ください。

3 出穂後の水管理 ～出穂後20日間の湛水等、水管理は確実に～

近年、登熟期間は高温で経過しています。この時期の水不足は、白未熟粒や胴割粒の発生を助長し、品質低下の大きな要因となります。



出穂後20日間の湛水管理、その後の収穫5～7日前までの間断かん水で稲体の活力を維持し高品質な米に仕上げましょう。また、収穫5～7日前に落水し収穫作業に支障が出ないようにメリハリのある水管理を実行しましょう。

(1) 出穂後20日間の水管理

出穂期までは飽水管理を実施し、出穂後20日間は湛水状態を保ちましょう。また、適宜、水の入れ替えを行いましょ



出穂後20日間湛水管理の効果
 水田内の温度上昇をおさえることにより、稲体活力を維持し登熟や品質を高め、白未熟粒の発生を防ぎます。

(2) 収穫までの水管理

出穂20日後から収穫5～7日前までは間断かん水とし、適正な土壤水分を維持しましょう。

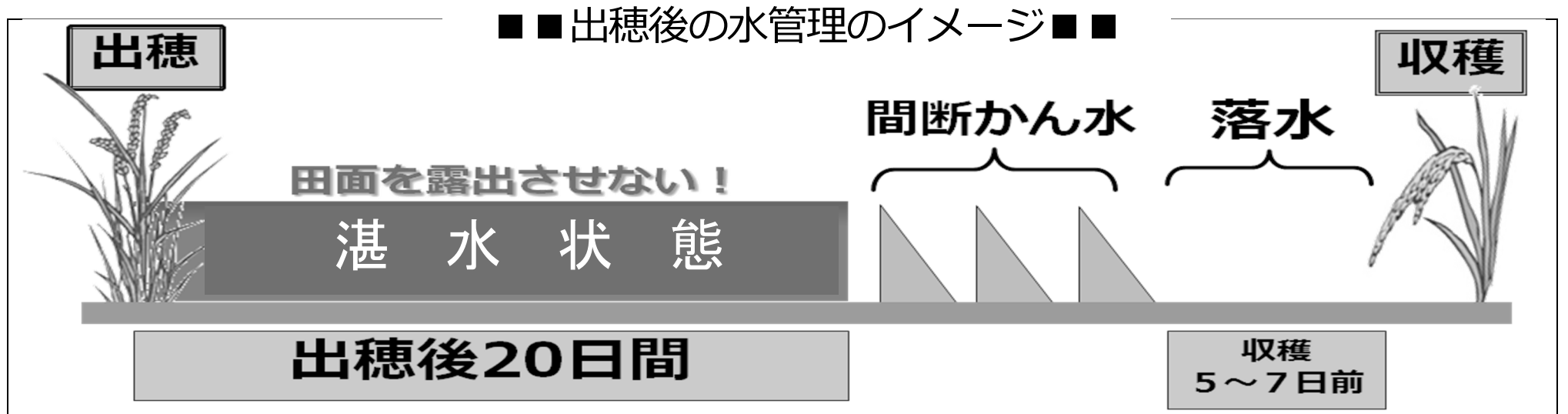


収穫5～7日前までの間断かん水の効果
 登熟が良好に進み、乳白、背白粒等の白未熟粒や胴割粒の発生を防ぎ、品質が向上します。

収穫5～7日前に水尻の板を外して排水、田面を固くしてコンバイン作業に支障が出ないようにしましょう。

〔間断かん水の方法(以下を繰り返します)〕
 乾きやすいほ場...1日湛水 → 2～3日落水
 乾きにくいほ場...1日湛水 → 4～5日落水

なお、フェーンが予想される場合は、事前に入水しましょう。



下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め地域での計画的な用水の利用に努めましょう。